

04-5 長野市の新型コロナウイルス感染症第6波における感染経路分析の試み

小林良清、長澤詩子（長野市保健所）

キーワード：新型コロナウイルス感染症、第6波、感染経路、同居感染

要旨：長野市の新型コロナウイルス感染症第6波における感染経路を推定し、その動向を分析したところ、同居による感染が最も多く、10歳未満・10代とその親の世代である30代・40代がその多くを占めており、これらの感染者数の規模と増減が第6波の動向に大きく影響していることがわかった。同居感染を制御することは困難であるが、その点を踏まえた対策が必要である。

A. 目的

長野市の新型コロナウイルス感染症第6波における感染経路を推定し、その動向を分析する。

B. 方法

長野市が2021年12月26日から2022年2月22日までに公表した感染者4,618人（第6波前半）及び3月20日から5月18日までに公表した7,838人（第6波後半）を対象に個々の感染経路を推定し、発症日ごとに直近1週間1日平均の感染経路別感染者数及び感染経路不明割合を算出した。感染経路は、同居、同居外家族、同居外知人、イベント等、飲食店、会食、学校、医療機関、高齢者施設、障害者施設、児童施設、職場、県外、不明とし、接触歴がある感染者のうち発症日が早い方を原則として感染源とし、複数の感染経路が推定される場合には接触時間が長い方を採用した。

また、同居による感染者を対象に発症日ごと

に直近1週間1日平均の年代別の感染者数及び感染経路不明割合を算出した。

倫理的配慮として、感染症法に基づく疫学調査において収集したデータのみを利用して集計を行い、取扱者も同調査に従事する者に限定した。

C. 結果

図1から図4までのとおりとなった。感染経路別では前半・後半ともに同居が最も多く、不明を除くと前半は医療機関、学校、高齢者施設などが、後半は児童施設、学校などが次いでいた。

年代別では前半・後半ともに10歳未満・10代とその親の世代である30代・40代が多かった。

D. 考察

同居での感染が第6波の感染規模と動向に大きく影響していることが推測された。同居感染を制御することは困難であるが、その点を踏まえた対策が必要である。

E. 利益相反なし。



